Procedural GPの手技力

編集：齋藤 学
ゲネプロ代表

三輪書店
6,480円（本体6,000円＋税8％）
A4/240頁
ISBN 978-4-89590-635-7

地域医療から学ぶ「手技力」

この書籍を手にした瞬間に，自治医科大学を卒業し，島根県で9年の離島を含めた地域医療に従事してきた懐かしい記憶が彷彿としてきた。2年間の初期研修を終えてから，実際に地域で勤務をするうえで，自分がしなければならない手技を見学したり，実際に指導していただき，時間のないなかでがむしゃらに習得した。この私自身も，地域で多くの手技の経験を積んできた。そのような多くの手技が「Procedural GPの手技力」に含まれている。離島の病院では眼科，泌尿器科，整形外科，産婦人科，皮膚科の先生方から指導してもらい，夜間の急患患者の対応をしてきた経験が私の医療の根源となっている。

本書の大きな特徴は，視覚的に伝えることができるようにカラー写真をふんだんに使用しているところである。また，メモなどを記載するスペースを設けており，書き込むことで自分のオリジナルの書籍ができる仕組みとなっている。視覚と自分のメモ記載により習得の速度を上げることができ，そのうえで，手技の見学，シミュレーショントレーニング，実施を，巻末のチェックリストを用いながら把握することで，さらに効率の高い研修が実現できる。今までの地域医療のネガティブなイメージをポジティブなイメージに転換させ，とても有意義で楽しい研修ができるのではないだろうか。

昨今，大学の救急・救命センターでは，この「Procedural GPの手技力」に含まれている多くの手技（地域の救急で遭遇するであろう）が実際に経験できない環境になっている。それは，専門家にコンサルトをかける仕組みになっていることが多いためであり，救急総合医の基本的な手技力の低下につながっている。

編著者である齋藤氏は，ゲネプロ（Rural Generalist Program Japan*）代表であり，オーストラリアの僻地地域医療学と提携し，日本の地域医療に活力を与えるプログラムを立ち上げている。私も氏にお会いしてこのプログラムを聞いた時から，まったく違和感なく受け入れることができ，斬新なアイデアに賛同した。地域医療でいかに多くを学ぶことができるか，その構想を具体的なプログラムのなかに示しておられる。

私の故郷である島根県でもこのゲネプロのプログラムがあり，「親父の背中プログラム」という名称のもと，地域医師会の専門家の先生方（皮膚科，耳鼻科，整形外科など）がクリニックで実際の指導にあたられている。「Procedural GPの手技力」は，実臨床で多く遭遇する疾患を指導医から学ぶことができ，practicalなトレーニングに最適な良書であり，多くのことを学ぶ機会がある研修医の先生方のほか，総合診療医，総合内科，救急の専攻医の先生方に手にとっていただき，明日からの診療に役立てていただきたい。

（藤谷 茂樹）

＊日本版離島へき地プログラム<https://genepro.org>

©MEDSI Ltd, 2018